

【今週の注目疾患】

《レジオネラ症》

2023年第34週に県内医療機関からレジオネラ症の届出が3例あり、2023年の累計届出数は58例となった。

2014年から2023年第34週までに県内医療機関から807例のレジオネラ症の届出があり、病型別では肺炎型が763例（95%）、ポンティアック熱型が36例（4%）、無症状病原体保有者が8例（1%）であった。性別では男性が662例（82%）、女性が145例（18%）と男性が約8割であった。年代別では、60代が219例（27%）と最も多く、次いで70代が207例（26%）、80代が143例（18%）であり、60歳以上が約8割（611例）を占めた（図1）。レジオネラ症は1年を通して発生がみられるが、夏から秋にかけて届出が多くなる傾向があり、引き続き発生動向を注視していく必要がある（図2）。

図1 2014年～2023年第34週の県内のレジオネラ症の診断時年齢群・性別届出数、807例

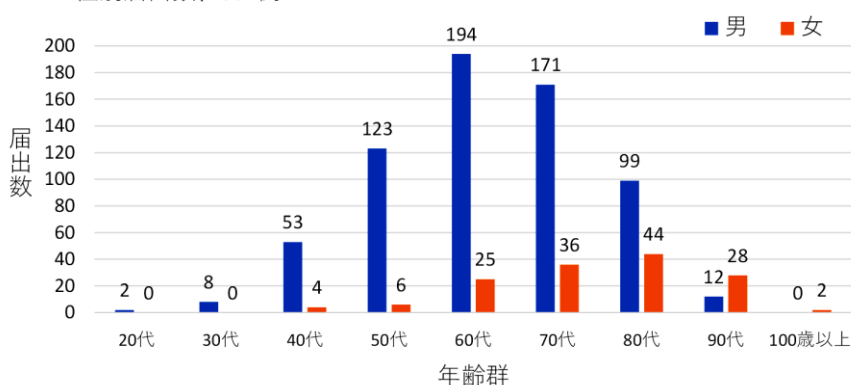
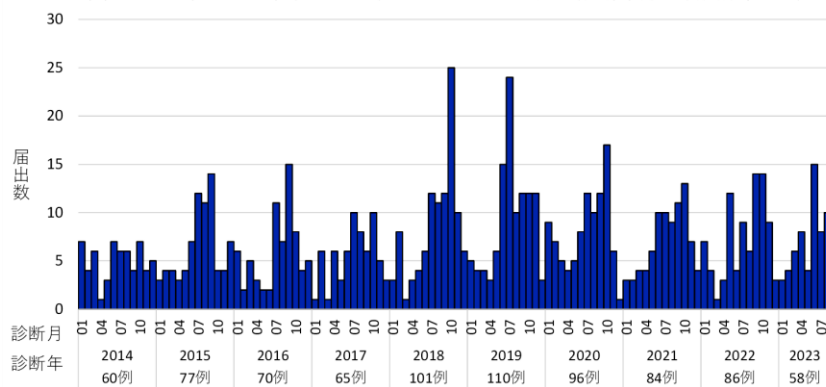


図2 2014年～2023年第34週の県内のレジオネラ症の診断年月別届出数、807例



届出票に記載のあった症状・所見（重複あり）は、肺炎723例（90%）、発熱718例（89%）、咳嗽309例（38%）、呼吸困難276例（34%）、意識障害115例（14%）、下痢78例（10%）、多臓器不全66例（8%）、腹痛24例（3%）であった。

推定される感染原因・感染経路（重複あり）は、水系感染が229例（28%）、塵埃感染48例（6%）であった。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による細菌感染症であり、主な病型として重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性で自然に改善するポンティアック熱がある。レジオネラ属菌は、土壌や水環境に広く存在する菌である。感染経路としては、エアロゾルを発生させる人工環境（噴水等の水景施設、空調設備の冷却塔、気泡発生入浴設備、加湿器等）や循環水を利用した風呂を

感染源とするエアロゾル感染、温泉浴槽内や河川で溺れた際に汚染された水を吸引・誤嚥したことによる感染、汚染された土壌の粉塵を吸い込んだことによる塵埃感染などがある^{1,2)}。

レジオネラ肺炎の潜伏期間は2～10日である。全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、寒気、胸痛、呼吸困難がみられるようになる。意識レベルの低下、幻覚、手足が震えるなどの中樞神経系の症状や下痢がみられるのも特徴である。適切な治療がなされなかった場合には、急速に症状が進行し、死亡に至ることもある²⁾。

ポンティアック熱の潜伏期間は1～2日である。突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まるが、一過性で治癒する¹⁾。

高齢者や新生児は肺炎を起こす危険性が通常より高いので注意が必要である。また、大酒家、喫煙者、透析患者、移植患者や免疫機能が低下している人は、レジオネラ肺炎のリスクが高いとされている²⁾。

対策としては、超音波振動などの加湿器を使用する時には、毎日水を入れ替えて容器を洗浄することが重要である。追い炊き機能付きの風呂や24時間風呂などの循環式浴槽を備え付けている場合には、浴槽内に汚れやぬめり（バイオフィーム）が生じないように定期的に清掃を行うなど、取扱説明書に従って維持管理をする²⁾。エアロゾルが発生する高圧洗浄作業や、粉塵が発生する作業、腐葉土を取り扱う園芸作業をする場合には防塵マスクを着用して感染を予防する¹⁾。

また、台風や大雨等による水害発生時、清掃やがれき・汚泥の除去等の作業でレジオネラ菌を含む粉塵やエアロゾルを吸い込むことにより感染するおそれがある。清掃等の作業にあたる場合には、感染予防のためマスクを着用いただきたい^{3,4)}。

■引用・参考

1)国立感染症研究所：レジオネラ症とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/530-legionella.html>

2)厚生労働省：レジオネラ症

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html

3)千葉県健康福祉部疾病対策課：浸水した家屋等の消毒方法について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/shinsuikaokusyoudoku.html>

4)厚生労働省：被災した家屋での感染症対策

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00341.html

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況】

2023年第34週の県全体の定点当たり報告数は、前週の22.38人から増加し、25.68人であった。

地域別では特に君津（45.69）、市原（39.27）、香取（37.33）保健所管内で患者報告数が多かった（図）。

県内16保健所中12保健所管内で前週より定点当たり報告数が増加した。

図：直近5週間の県内 COVID-19 定点当たり報告数の推移（保健所別）

